

めざす児童生徒像

- 主体的に学校生活に取り組む子の育成
- 下学年に憧れをもたれる上学年の育成

※児童生徒達成結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間				年度末				達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			※差	数値・アンケート結果 (%)			※差		
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者			
(学校で設定)	主体性の育成	①②③⑤の児童の割合の平均が85%以上	① 一人一人がめあてをもち、そのめあて達成をめざし、学習や学校行事に進んで取り組んでいる。下学年にあこがれをもたれる行動をしている。(5・6年)	100	95.2	-4.8	100	93.9	-6.1	・④⑤について、若干前期を上回った。行事や友達と関わり合う活動があり、活躍できる場や活躍を認めていく場を設定できたのがよかった。 ・「憧れをもたれる上学年」は、もっとと高学年が全校で活躍できる場や、高学年の自己有用感を高める場を設定できればよかった。	・「憧れをもたれる上学年」の育成のためには、低学年から「心を育てること」が大切。心を育てるために、必要な取り組みを考え、できることから実施する。		
			② 上学年にあこがれをもち、自分も上学年のようになりたいと思っている。(1～5年)		90	-10	100	84.3	-15.7				
			③ 自分にはよいところがあると思っている。(自己肯定感)		91.6			89.6					
			④ 自分の行動が人の役に立っていると思っている。		79.4			81.7					
			⑤		78.5			82.5					
			集計	100	88.8		100	87.6					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間				年度末				達成状況の分析	改善策
重点項目	業務改善意識	①②③の割合の平均が90%以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	60			64.7				①②③の平均は68.6% 毎月退庁ウィークを設定。B日程で会議をなるべく入れないようにすること、1週間という幅を持たせたことで、若干であるが意識できる職員が増えた。 2学期は、放課後の会が多く、子どもと向き合う時間や教材研究の時間が取れないと感じる教職員が多かった。	・定時退庁ウィークは今後も継続する。 ・短い時間で効率的に業務を行うことを、更に意識づける。	
			② 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の平準化がなされている。	66.7			64.7						
			③ 協力・協働体制で組織的に業務が行われている。	73.3			76.5						
			④ 勤務時間意識を持ってタイムマネジメントに心がけている。(子どもと触れ合う時間・教材研	73.3			64.7						
			⑤ 仕事にやりがいや達成感を感じている。	73.3			64.7						
			集計	73.3			76.5						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)				数値・アンケート結果 (%)				達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	学校研究	①②③の平均が90%以上	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	86.7			80			①について、8月・9月には講師を招聘し校内研修を行ったり、10月には模擬授業などで研修したりした。達成の割合は下がっているが、A回答が4割から7割まで増加している。 ②、③については、先生方の協力により、計画通りに、研究授業に取り組むことができ、本校の成果と課題を確認することができた。	・3学期も、向本折スタンダード授業の確実な実践を継続して行っていく。特に、「表現力育成」、導入や課題提示の工夫、ねらいの明確化、について研究だよりなどを使って、推進を図っていく。		
			② 研究主題に迫る目指す授業像(児童生徒像)を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	86.7			93.3						
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組む、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	86.7			93.3						
			集計	86.7			93.3						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)				数値・アンケート結果 (%)				達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	①③④の平均が85%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	92.9	90.4	-2.5	100	87.3	-12.7	・①③④について、平均が教員77.6%、児童は、87.3%という結果であり、児童のみ目標指数を達成していた。教員は、中間に比べ6p増加。3pの減少であった。 ・①については、向本折スタンダードが教員、児童ともに定着してきたことが結果につながったのではないかと考えられる。 ・③については、先生方の発表力向上への意識の高まりを感じることができた。発表力の系統を明確にして、ペア、グループなど様々な場面で、発表する場面を設けてきたことの成果かと考える。 ・④記述力の育成については、児童の目指す姿、目指すノートについての共有がなされなかったことが、教員の結果6割の原因かと思われる。3年以上は、算数新聞による取り組みがなされたが、それ以外の学年での取り組みがなかったことも要因であると思われる。	・コロナ禍で、十分に話し合い活動等ができない現状はあるが、今後も継続して児童の発表力向上の取り組みを行っていく。 ・記述力については、目指すノート作りについて、職員で話し合い、共通理解する場を持つ。 ・思考を深めるノートづくりについて、今後も考えていく。		
			② 児童生徒は、学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	85.7	87.7		73.3	88.6	15.3				
			③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	57.1	90.4	33.3	73.3	87.8	14.5				
			④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	64.3	89.9	25.6	60	87.3	27.3				
			⑤ 児童生徒は、友達と話し合うとき、友達の考え(自分と違うところや違うところ)を受け止めて(聞いて)、自分の考えを持つことができている。	78.6	88.2	9.6	73.3	91.7	18.4				
			⑥ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	100	96.1	-3.9	86.7	93.9	7.2				
集計	64.3	89.9		60.0	87.3								

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)				数値・アンケート結果 (%)				達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	学力の定着	①②の平均が90%以上	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	91.7			93.3			・①について、中間よりも1.6%増加した。学力向上全体会で成果や課題、取組等を共通理解し、実践できている。 ・②について、中間よりも26.7%減少した。学校力向上ロードマップを指導計画に綴り、全職員が月に一回実施したかを確認している。定期的な検証という点で数値が下がったのではないかとと思われる。 ・③については、夏季休業中に松陽中学校区合同研修会で学力向上の取組を交流した。コロナ禍で全職員が参加できなかったため、各校の取組等を全職員に配布し、共有した。	・学校力向上ロードマップの検証に關して、各部が検証方法や時期を明確にし、実施していく。 ・毎月の企画調整委員会で話し合った進捗状況について、各部で連絡・調整していく。		
			② 学校力ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	100			73.3						
			③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)	79.0			73.3						
			集計	96			83.3						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)				数値・アンケート結果 (%)				達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	家庭学習	①の平均が80%以上 ③の平均が90%以上	① 自分で計画を立てて勉強している(3年以上)	77.8	86.6	8.8	90	80	-10	・①について、教員が90%、児童が80%で中間と比較すると教員が12.2%増加、児童が6.6%の減少であった。目標達成できているため、取り組みを継続する。 ・②、③の教員の平均について、②は13.3%減少、③は19%減少である。読書習慣が定着しておらず、目標を達成できない児童が多い。	・担任の先生方や、読書教育担当の先生と連携して、読書習慣が身につくような取り組みを学校全体で行っていく。(司書によるブックトーク、担任による読み聞かせ) ・児童の発達段階に応じて、適切な宿題の量や内容を考え提示する。 ・ICTを利用し、児童が意欲的に取り組めるような家庭学習の在り方を検討する。		
			② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	100			86.7						
			③ 家庭学習時間のめやすを達成できている	92.3	86.8	-5.5	73.3	91.3	18				
			集計	90.0	86.7		83.3	85.65					